

# 皆さんのお買い物が

## 東日本大震災から9年余り

東日本大震災から10年目に入ります。被災した地域や学校の再生はなお途上にあり、地元帰還の展望さえ描けない地域も残る福島県をはじめ、岩手、宮城両県を合わせた3県の被災校は息の長い支援を求めています。

ベルマーク財団は震災直後、3県と茨城県にノート、鉛筆、クレヨンなど計800万円相当の緊急支援を実施しました。その後も2019年度までの9年間で、被災地支援プロジェクトとして3県を中心に延べ1893校に対し、計4億9000万円相当の支援をしてき

ました。

各校が必要とする設備品や教材を贈呈したほか、中学校には生徒がクラブ活動や校外学習などの際に使うバス代の直接援助にも取り組んでいます。

2020年度はプロジェクト10年目に入りますが、これまでと同じように岩手、宮城、福島3県の被災校を対象に、積極的に支援を続けます。

ベルマーク運動参加校・団体のお買い物を通じて生まれる通常の支援資金や寄付、寄贈マークなどに加え、7年目に入った「ウェブベルマーク」からの助成金も活用します。



狭い場所でも  
みんなで仲良く一輪車の練習。  
岩手県宮古市立重茂小学校



デジタル教科書で楽しく勉強。  
宮城県仙沼市立鹿折小学校



仮設校舎の教室でも、  
生徒たちはいきいきしていました。  
岩手県陸前高田市立気仙中学校

# 支援金を生みます

## 学校外での活動にも支援

学校外の支援として行っていた東日本大震災に伴う「寺子屋」事業は2019年度で5年間の支援計画を終えました。その中で、宮城教育大の「311いのちを守る教育研修機構」は寺子屋活動から事故の教訓を学校現場で活かす試み、学校の防災力を高めるための教師の研修等に力点を置いた活動にモデルチェンジしました。この災害に強い学校づくりをめざす宮城教育大の事業と福島と水俣の中学生交流事業への支援は継続しています。



311いのちを守る教育研修機構  
宮城教育大

## 被災校から感謝のメッセージ

東日本大震災後、2016年に熊本地震、2017年に九州北部豪雨、2018年に西日本豪雨、北海道胆振東部地震、2019年には台風・大雨被害と災害が相次いで起こりました。ベルマーク財団では、東日本大震災への援助を継続するとともに、新たな災害で被災した学校にも支援事業を実施しています。

対象の学校や子どもたちからは、支援に感謝するメッセージが届いています。



阿蘇市立  
一の宮中学校

阿蘇市立一の宮中学校 生徒一



福島県大熊町立  
大熊中学校



安平町立  
早來中学校